

ドイツの長距離旅客鉄道輸送市場で 攻勢をかける「FlixTrain」

ひじかた
土方 まりこ
交通経済研究所主任研究員

ドイツでは、鉄道改革が開始された 1994 年以降、鉄道インフラへの第三者によるアクセスが開放され、鉄道輸送事業への新規参入が可能となった。こうしたなか、ドイツ鉄道が運行する ICE や IC/EC と競合するかたちで、都市間旅客鉄道の運行に着手したのが FlixTrain である。

FlixTrain は、ドイツのトラベルテック企業である Flix SE が展開する旅客鉄道サービスであり、2018 年より提供がスタートした。Flix SE は、路線計画、運賃設定、予約・販売、マーケティングなどを自ら担う一方で、運行実務は提携事業者に委ねるアセットライト型の事業モデルを採用している。同社は、2013 年に自由化されたドイツの長距離バス市場への参入後、急速な成長を遂げ、今日では同市場をほぼ独占するに至っている。のみならず、近隣の欧州諸国や北米をはじめとする世界各地における長距離バス事業への進出も果たしてきた。

FlixTrain としても、2026 年現在では、ハンブルク、ベルリン、ケルン、フランクフルト、シュトゥットガルトといった主要都市に発着する 3 系統を中心に、ドイツ北部と南西部、ライン・ルール地方と東部を結ぶネットワークを形成している。また、サービス開始当初より、低価格を主要な訴求点としてきており、FlixTrain の運賃は、概してドイツ鉄道の ICE や IC/EC よりも低い水準に設定されている。

もっとも、ドイツ国内の長距離旅客鉄道市場においては、ドイツ鉄道が圧倒的なシェアを占めており、FlixTrain のそれは依然として限定的である。しかし、自社のシェアの拡大に加え、より多くの選択肢の旅客への提供を通じて、ドイツの鉄道市場そのものをさらに成長させることも目指すとして、2024 年以降、Flix SE は複数の積極策を展開してきている。

具体的には、まず、既存路線における増便やネットワークの拡張などを通じて、2024 年における輸送力を 2023 年よりもおよそ 40% 拡大させた。

また、FlixTrain の列車が直接乗り入れているのは、ドイツ国内の 50 駅ほどにとどまるが、同社の長距離鉄道とその前後に乗車する他社の地域鉄道（ドイツ鉄道グループが運行する列車を含む）を組み合わせた通し乗車券をウェブサイト、もしくはアプリから購入可能とすることで、自社のネットワークを補ってきた。この通し乗車券は 2023 年に導入されたが、対象駅数が段階的に追加され、その総数は 1,000 を超えている。

さらに、2025 年 5 月には、Talgo 製の新型高速列車 30 編成を発注した。この新車は、Talgo230 型客車と Siemens 製 Vectron 電気機関車を組み合わせた機関車牽引式列車であり、最高速度は 230km/h となる。バリアフリー化に対

応し、Wi-Fiなども装備した上で、2028年以降、営業運転へと順次投入される予定である。また、35編成を追加発注できるオプションが設定されており、これを行なった場合、15年間の保守サービスを含む契約規模は最大24億ユーロに達する。これまでのFlixTrainのサービスには、主として既存の客車を改修した車両が使用されてきたが、今般の新造車両への大規模投資は、従来の車両調達方針からの大きな転換を示している。

ただし、FlixTrainが新車を投入して輸送力を増強したとしても、ドイツの鉄道インフラが直面している老朽化や容量不足といった課題が解消されなければ、その成長は制約される可能性がある。すなわち、2000年代におけるドイツ鉄道は、株式上場を視野に入れた経営方針の下、収益性や経営効率の向上を重視していたが、この時期を中心とする長年に及ぶ更新投資不足により、既存インフラの老朽化と更新需要の累積を進行させた。その結果、設備故障や速度制限が列車の安定運行に影響を及ぼすようになり、2026年現在に至るまで、主要幹線を対象とする大規模な更新・近代化工事への注力を迫られている。これらの工事は、中長期的には運行の安定性や輸送力の向上に寄与するものと期待される一方で、期間中は長期運休や迂回運転の実施を余儀なくされる。そして、ドイツ鉄道グループに所属する鉄道輸送子会社のみならず、FlixTrainをはじめとする同社グループ外の鉄道事業者も、当面は運行上の制約を受けることになる。

こうした実態を踏まえれば、FlixTrainの事業拡大の成否を見極めるうえでは、ドイツ鉄道におけるインフラ改修の進捗状況にも注目する必要があるといえよう。

主要参考文献

- [1] 土方まりこ（2015）「事業環境の変容に直面しているドイツ鉄道の旅客輸送」
<https://www.itej.or.jp/cp/wp-content/uploads/katsudou/2015-01.pdf>
（2026年9月24日現在）。
- [2] 土方まりこ（2026）「巨額減損の計上が示すドイツ鉄道の長距離旅客輸送事業の構造的な問題」
<https://www.itej.or.jp/cp/wp-content/uploads/katsudou/ks202606.pdf>
f（2026年9月24日現在）
- [3] Flix SE ウェブサイト
<https://www.flix.com/de>（2026年9月24日閲覧）